

良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

町田市議会議員 4期連続トップ当選

<編集発行>

〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
自宅 042-795-7361(fax 兼用)
市議会議員 吉田つとむ
yoshidaben@gmail.com



工芸美術館工事に係る請願に賛成討論

何度、入札条件を緩和しても不調が続く因縁物件

(1)請願第9号「擁壁設置工事及びエレベーター設置工事の実施を延期し、近隣住民と協議の場を速やかに設けることを求める請願」、及び、(2)請願第11号「くより開かれた説明会と正確な情報開示を行い「市民が主役の公園づくり」を求める請願」の2件で、請願の賛否に関する本会議議論の最後に賛成討論を行いました。(1)は、町田市が進めている、(仮称)町田市立国際工芸美術館の建設工事に関するもので、その設計契約の段階で何度もつまづいている段階です。(2)は、野頭田公園内のスケートボード場の建設にかかわるもので、当初の説明とは大きく変わった点や住民説明会がほとんどなされない中で施設建設が図られている点に住民から疑問が呈されたものですが、以下は(1)の討論全文です。



現在の版画美術館と公園内の噴水

請願第9号、擁壁設置工事及びエレベーター設置工事の実施を延期し、近隣住民との協議の場を速やかに設けることを求める請願についてですが、擁壁設置工事、エレベーター設置工事はそれぞれ入札中止になっており、市民と話し合いの時間を作る環境は整っていると言えます。また、擁壁設置工事については、市は警戒区域内の3軒しか訪問していないことが委員会質疑でも明らかになっています。本会議答弁では、「引き続き、芹ヶ谷公園近隣の地域住民をはじめ、市民の方々に対しても丁寧に説明を行いながら、事業を進めてまいります。」と繰り返し言っているのに、協議をする場は設けられないというのはおかしい話です。市民の声を聞き、市民と共に街づくりを進めるために、請願第9号に賛成いたします。結果、請願は不採択(否決)でした。

職員がお詫びして本会議発言を取り消し

町田市議会では、議員質問に対して理事者答弁が不誠実

今回の第2定例会本会議の会議中に、議員が一般質問を行った際、(部長)答弁の中で、質問者の言葉に関して「その言葉が差別だから撤回されるべき」という趣旨の言葉が出てきました。もとより、行政職員が議員の発言の可否を述べる方法は認められておらず、危うく、議員の発言を行政側が抑え込む状況が放置される議事運営が発生しかけているのではないかと思われました。説明員(部長)の発言を放置したらどうなるか、市長などの理事者を含めて、一般説明員までが横柄になって議員の発言など意に介さないことになるかもしれません。

石坂市長は5期目の最終年(20年目)を迎えていますが、面倒な議論の手間が無い方がありがたいという考えなのか、自分が気に入った質問(者)にししか答弁しない態度を取り続けています。大半は、それで議事運営がスムーズに行っていると解釈されているでしょうが、議員の質問に対して、行政職員は真摯に答えるというのが、議会のルールの根幹です。その日の会議が中断した中で、様々の論議や対応があって、最終的には、説明員(部長)がお詫びをしたうえで、発言を取り消しました。

原則を大事にして真摯に発言する議員は、「本来の議員の役目を果たしている」と少なからぬ住民が判断するものでしょうし、議員はそうした気概を示さないと、トラではなく市長からネコと思われるのではないかと思います。



インターン生を同行し、相模原市議会本会議場で撮影

○支持政党なしの方々の代表＝吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

◎水耕栽培メロン 世界一決定戦を開催しよう!

町田市議会の無所属会派は、政党に所属しない議員3名で構成し、明快な議論を提起します。

若い世代の育成に全力をささげる 町田市議会議員(支持政党なしの方々の代表) 吉田つとむ



ブログ 個人HP



メールは
左記を読込
して送信



好評インターンシップは、第
56期生がスタートしました。

インターン体験記②-1 岡田愛海

町田市民であれば一度は見たことがある「町田市議会だより」ですが、市の広報紙と違い文字数が圧倒的に多い印象があり、それに加えて政治の内容となれば若い人ほど興味を持ちにくい傾向にあります。新聞での刊行も少なくなっている今、少しでも目に止めてもらえる工夫として、一面に写真を大きく載せているとのことでした。色味が良いだけでなく、ふと内容が気になる…そんな写真や文字を配置。町田市民のためにどのような会議をしているのか、市政を取り巻く諸問題についての回答はどういったものなのかを市民に届けるため、工夫を施しているとお話しして頂きました。

町田市の広報紙ではまた別のお話を聞くことができました。広報紙に載せる話題は様々ですが、市から市民へ伝えるための工夫は市議会だよりと同じ『人の目を引けるような一面の作成』でした。防犯意識を高めさせるためのイメージ写真や、ついやりたくなる間違い探しなどで興味を惹き、詳細は二面にあるという旨の文章を付け加えることで、自然とページを捲るよう誘導しているとのことでした。また、読み手は当たり前に見ている写真ですが、灰色を帯びた紙に印刷する際は普通紙と比べ色味が変わるという特徴があります。実際にテスト印刷と刊行された広報物を見比べ、色味の調整がいかに重要なのかを学びました。

少しでも読みやすくする細かな工夫が、公共物にとってどれだけ大事なのかを知れる良い機会を頂きました。(町田市議会図書室にて)



インターン体験記②-2 岡田愛海

阿部相模原市議の協力で、相模原市の広報を学ぶ

町田市のすぐ隣にある相模原市役所にてお話を伺いました。町田市の議会事務局・行政の広報課とは、また違った工夫点を聞かせて頂きました。表紙で興味を持たせるといふ点は同じですが、二面から七面にかけて内容が大きく異なっており、相模原市の市議会だよりでは『頭にスッと入る文章』を心がけ、文字量を大幅にカットするという方策を取ったとのこと。文字数や文字の大きさを見るに読みやすい内容量となっており、若い人が少しでも目を通せるよう工夫が施されていました。しかし、文字を少なくするということは、その分議員の話した内容を取捨選択しなければなりません。その調節の難しさを乗り越えて作成しなければならない大変さをひしひしと感じました。



横一列ではありませんが、右が阿部善博相模原市議

相模原市の広報紙では、掲載内容の異なる1日号と15日号を、ほぼ同時進行で二ヶ月の間に仕上げていくと聞き驚きました。そんな作業量の多さに目まぐるしくなりながらも、見やすさや読みやすさ、カラーユニバーサルデザインへの配慮をしっかりと考え誌面作成をしていると姿に、社会で働くものとしての責任感を感じました。さらに、季節に合った写真を一面に大きく載せており、紫陽花の優しい色合いやみずみずしいトマトの赤が目を引きまします。しかし、鮮やかな赤を印刷する際はどうしても色味が違う形で出てしまうという難点があり、私も課題で印刷作業を行う際よくぶつかる問題なので深く共感を覚えました。

途方もない調整作業を繰り返すからこそ、最も良い広報物を届けられるのだと学ばせて頂きました。

横浜美術大学4年 岡田愛海(第56期生)

◎ 吉田つとむのインターンシップは1998年に開始。2025年5月末までに112名が参加しています。

◎ 現在は第56期インターン生の岡田愛海さんが5月末からスタートしました。大半は夏季休暇の期間となります。

◎2025年夏季インターンシップ生の募集は今後も継続しています。